

●筑波大学附属小学校

教材から保健だよりまで効果的に活用

青は峻別と美しさ、赤は強調。 色が持つ効果を実感。

筑波大学附属小学校では、平成17年9月から2色デジタル印刷機の研究助成校としてさまざま実践を行なってきました。今回は、その中から見えてきた2色プリントの教育効果について伺いました。



露木和男先生

初等教育の理論と 実際について研究

明治6年に東京師範学校附属小学校として設立され、すでに創立134年を数える筑波大学附属小学校。

日本でも指折りの歴史ある小学校であると同時に、ここでは初等教育の理論と実際について研究することが使命とされ、その研究成果を年2回公開しています。

研究発表会には国内外から多くの参観者があり、研究成果を通して国際交流も行われています。クラス定員は40名で、現在、24学級、946名の子どもたちが学んでいます。

子どもたちの集中力がアップ

同校は平成17年9月に2色デジタル印刷機の研究助成校となり、2色プリントがどのような教育効果をもたらすかを探ってきました。

研究担当の露木和男先生は、さまざまな2色プリントの教材や通信類を前にして、開口一番、

「色が子どもたちに与える影響は決して小さくないと、改めて思いました」

と言います。

特に効果を強く感じたのは漢字練習教材の枠線を黒から青にしたときだったとのこと。

それまでは漢字練習教材の枠線は、黒というのが当たり前でしたが、枠をすべて青色にしたとき、担当の先生は、子どもたちの集中力が違うと感じたと言います。

「その理由を考えると、まず青色の枠線が美しい。青は落ち着いた色です。子どもたちは心理的に安心感を得ます。

そして、その枠の中に黒色（鉛筆）で漢字を書いていく。青の中の黒ですから枠線の青と区別され、見やすく美しい。子どもたちは自分の字が浮き立って、存在を主張しているように感じるのだと思います。

単純なことのようにですが、2色プリントによる学習の大切さを感じましたね」（露木先生）

青色の文字には独特の質感

青と黒の2色プリントの学級だよりも発行されました。

「これまでの黒1色の学級だよりと較べると、優しい温かな感じのする学級だよりになりました。」

漢字練習教材と学級だよりの試みからわかったことは、青い文字には独特の質感があるということです。

目には黒も青も入ってきていますが、青は、強く激しい黒に較べて一歩引いた印象を与えます。それが柔らかい、優しい感じを生み出し、逆に効果的にその部分を峻別します。

そして全体としては、ある種のハーモニーが生まれ、美しさを与えるのだと思います」

子どもが「先生」になれる

テストの模範解答を赤でプリントしたときは、また別の効果が得られたと露木先生は言います。

この授業では、グループごとに一人の子どもが問題と模範解答をつくり、他の子どもたちが解くというもので、この模範解答はグループ全員に印刷して配るのですが、赤を使うことで、担当の先生



2色デジタル印刷機の前で

